実　践　報　告

「主体的な学びを促す探求学習の創造」
～課題設定と話合い活動の充実を通して～

1　研究主題
2　研究構想図
3　研究内容

令和2年9月18日（金）
尾道市立日比崎中学校

今から教育研究実践報告を行います。

よろしくお願いいたします。

1　研究主題

「主体的な学びを促す探求学習の創造」
～課題設定と話合い活動の充実を通して～

R01　～課題設定と協働学習（話合い活動）の充実を通して～
H30　～思考を深める学び合いを通して～

「主体的な学び」の定義

教師が教え込むのではなく，
生徒が学びとる授業，
教師の声よりも生徒の声の方が多い授業，
生徒が思わず発言をしたり意欲的に行動したりする授業

本校では，平成28，29年に県の指定を受けて以来，「主体的な学びを促す探求学習の創造」という研究主題のもと教育研究に取り組んでいます。

本校における「主体的な学び」とは，
教師が教え込むのではなく，生徒が学びとる授業，教師の声よりも生徒の声の方が多い授業，
生徒が思わず発言をしたり意欲的に行動したりする授業と定義しています。

平成30年度は，副題を「思考を深める学び合いを通して」とし，探究学習の授業の展開場面における意見の練り合いの質の向上を図りました。

令和元年度は，それまでの3年間の取組のまとめとして，副題を「課題設定と協働学習（話合い活動）の充実を通して」とし，探究学習の授業の導入及び展開場面の質の向上を図りました。

これらにより，各教科，領域において多くの探求学習の単元開発を進めてきました。
お手元の資料1が，昨年度のカリキュラム・マップです。緑色の部分が開発した単元になります。

今年度は，昨年度の取組を継続し，「課題設定と話合い活動の充実を通して」ということに重点を置き，研究を進めてきました。

2　研究構想図

お手元の資料2をご覧ください。

こちらが今年度の研究構想図です。

本校ではこれまで，各教科や道徳において，生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることを目標に探究学習の研究を進めてきました。

昨年度は，その取組を特別活動にも広げ，話合い活動の充実，合意形成力や意思決定力の育成を図りました。

一方で，課題設定や話合い活動に関するどのような取組が，生徒の力の向上につながったのかについて検証が不十分であり，

また，全体討議の方法の深化なども課題です。

そこで今年度も引き続き，探究学習の授業の質を高めていくことを目的とし，
各教科・領域において，「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」のある探究学習の授業を展開し，その中で話合い活動を充実させることができれば，生徒の知識活用力および資質・能力（表現力・コミュニケーション能力・主体性）をより育成できるであろう，と研究仮説を立てています。

3　研究内容（研究の方向）

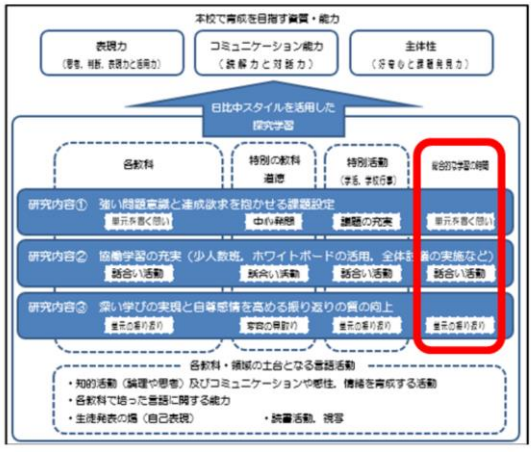
①日比崎中探究学習スタイルに基づいた授業を実施し，教科横断的な学習での「話合い活動」を通した，主体的な学びを促す，思考・判断・表現力の育成を図る。
②日比崎中探究学習スタイルに基づいた授業を実施し，「話合い活動」を通した，主体性・コミュニケーション能力・表現力の育成と，課題発見力・課題解決力の向上を図る。
③総合的な学習の時間における日比崎中探究学習スタイルに基づいた新単元の開発を行う。
④深い学びの実現と自尊感情を高めていくために振り返りの質の向上を図る。
⑤特別の教科道徳における日比崎中スタイルの見直しを行う。

この研究仮説を検証するための，
研究内容（研究の方向）として，画面にお示ししている5点を，
令和2年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る研究推進実施計画書に盛り込んでいます。

③，④，⑤，①と②の順でお話しさせていただきます。

3　研究内容

③総合的な学習の時間における日比崎中探究学習スタイルに基づいた新単元の開発を行う。



HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS

総合的な学習の時間の授業満足度　95％

研究内容③に関しては，

HIBIZAKI　SURVIVAL　PROJECTS，通称「サバプロ」を立ち上げ，

本校がこれまで取り組んできた，生徒会による吉浦町防災訓練への参加や，清掃ボランティア，地域貢献活動に，より意義のある形でつなげるため，

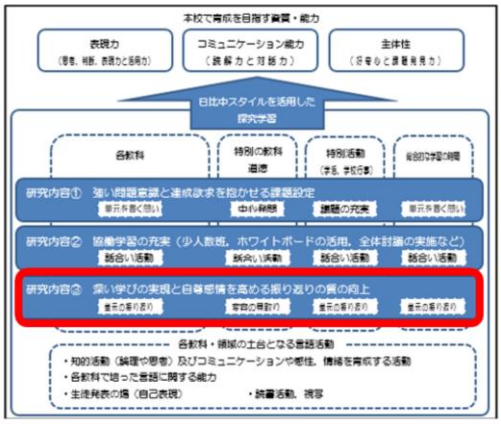
南海トラフ巨大地震から皆で生き延びようという防災教育の視点で，地域との連携を模索しながら，取り組みを進めているところです。

１学期の総合的な学習の時間の授業満足度は，９５％でした。

フィールドワークを実施する2学期も，生徒が達成感を得られる取組にしていきたいと考えています。

3　研究内容

④深い学びの実現と自尊感情を高めていくために振り返りの質の向上を図る。



自尊感情アンケート 結果　肯定的評価
（学校全体）

学校名	尾道市立日比崎中学校	月 日	2020/4/

□は全体より上

		項 目	全体	3年1組	3年2組	2年1組	2年2組	2年3組	1年1組	1年2組	1年3組
自己有用感	1	自分は誰かの役に立っている。	79%	71%	78%	83%	79%	97%	84%	74%	74%
	2	自分は誰かに必要とされている。	78%	68%	68%	83%	89%	97%	84%	71%	74%
自己効力感	3	「自分にはできる」と思うことがある。	92%	92%	85%	93%	93%	100%	97%	97%	84%
	4	自分は「やればできる」と思う。	93%	97%	90%	90%	93%	100%	97%	94%	81%
自己肯定感	5	自分が好きである。	65%	55%	50%	63%	68%	97%	65%	65%	68%
	6	自分にはよいところがある。	85%	82%	76%	87%	79%	97%	87%	87%	90%
自己存在感	7	自分はここ（学級・学年・学校）にいていいと思う。	94%	95%	88%	97%	96%	100%	97%	87%	97%
	8	自分は価値ある人間だと思う。	71%	74%	60%	67%	68%	97%	74%	68%	68%

自尊感情アンケート 結果　肯定的評価
（学校全体）

学校名	尾道市立日比崎中学校	月 日	7月27日

□は全体より上
赤字　は前回より上

		項 目	全体	3年1組	3年2組	2年1組	2年2組	2年3組	1年1組	1年2組	1年3組
自己有用感	1	自分は誰かの役に立っている。	73%	66%	62%	80%	68%	77%	74%	74%	90%
	2	自分は誰かに必要とされている。	74%	68%	64%	87%	75%	73%	74%	71%	83%
自己効力感	3	「自分にはできる」と思うことがある。	86%	89%	82%	83%	75%	93%	90%	84%	90%
	4	自分は「やればできる」と思う。	87%	97%	82%	90%	75%	93%	90%	81%	83%
自己肯定感	5	自分が好きである。	58%	53%	44%	60%	64%	73%	55%	55%	70%
	6	自分にはよいところがある。	76%	74%	72%	79%	64%	83%	70%	77%	87%
自己存在感	7	自分はここ（学級・学年・学校）にいていいと思う。	89%	89%	85%	97%	79%	93%	87%	90%	93%
	8	自分は価値ある人間だと思う。	66%	53%	72%	63%	64%	83%	52%	61%	80%

研究内容④に関しては，

自尊感情について，８項目のアンケートを作成しました。

４月当初に行ったアンケートと，毎学期の学校評価・生活調査アンケートから，その変容を見取る計画です。

到達目標としては85％を考えています。

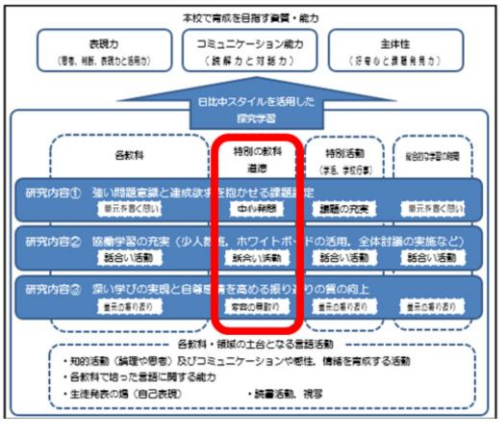
４月当初は，８項目の平均が82％でした。

７月のアンケートでは，４月に比べ全ての項目で肯定的評価が下がり，平均76％でした。

2学期に計画されている様々な取組みが，最終的に生徒の自尊感情の向上につながるように意識していきたいと思っています。

3　研究内容

⑤特別の教科道徳における日比崎中スタイルの見直しを行う。



中心発問（解きたくなる問い）
話合い活動（全体討議の充実）
1. 出し合う
　　個人の意見
2. 比べ合う
　　行為ではなく理由を類型化
3. 決める
　　価値について，個人的な理由（経験）をもとに，自分の中で再定義

研究内容⑤に関しては，

7月に，広島大学大学院　宮里教授のご指導の下，中下先生が研究授業を行い，その授業を全員が参観しました。

現在の日比崎中学校の実体にあった，授業スタイルの見直し，共有化を図りました。

その中で見えてきたのは，

「中心発問（解きたくなる問い）」と「話合い活動（全体討議の充実）」をいかに行っていくか，

授業の流れとしては，特活ともリンクさせながら，

1．個人の意見を「出し合う」
2．行為ではなく理由を類型化し「比べ合う」
3．価値について，個人的な理由（経験）をもとに，自分の中で再定義する「決める」

という形です。

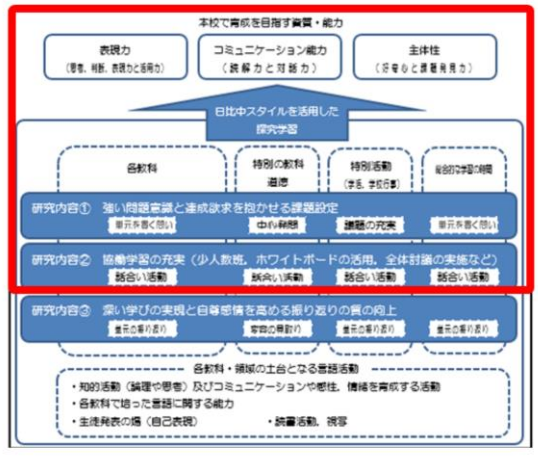
その後，各クラスの実体に合わせながら，同じ題材を各クラスにおいて追試しました。

1学期の道徳授業満足度は，94％でした。

引き続き，生徒が道徳的価値について考える授業を行っていきたいと考えています。

3　研究内容

①日比崎中探究学習スタイルに基づいた授業を実施し，教科横断的な学習での「話合い活動」を通した，主体的な学びを促す，思考・判断・表現力の育成を図る。
②日比崎中探究学習スタイルに基づいた授業を実施し，「話合い活動」を通した，主体性・コミュニケーション能力・表現力の育成と，課題発見力・課題解決力の向上を図る。



続いて，研究内容①および，研究内容②に関して,です。

十分な準備の基に，教科の本質を捉えた「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い，「思考を深める学び合いの場」を設定することで，生徒が思わず発言をし，意欲的に行動したくなる日比崎中探究学習スタイルに基づいた授業を実施していきます。

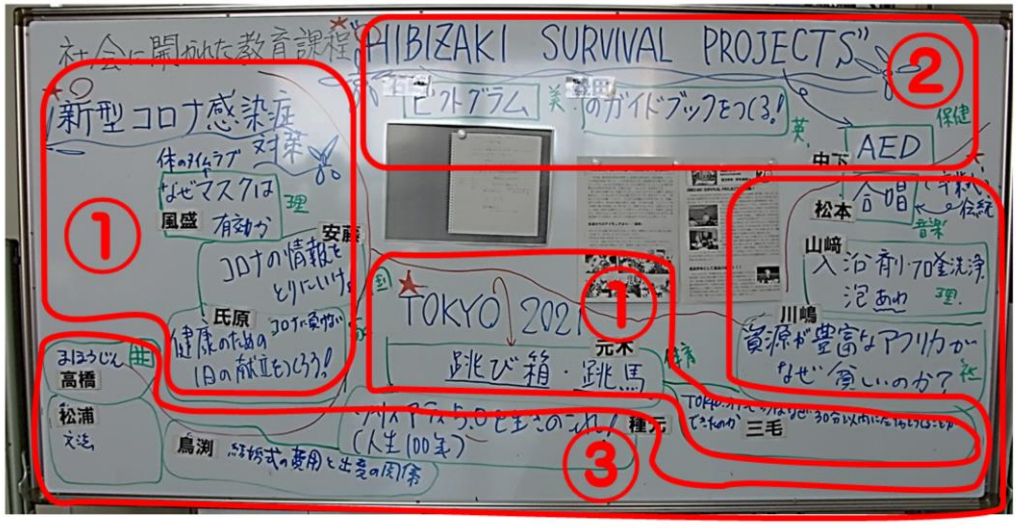
ここでいう，教科横断的な学習での「話合い活動」とは，教科と教科のつながりという意味ではなく，どの教科でも同じように，少人数班・ミニホワイトボードを活用した「話合い活動」を実施することをイメージしています。
どの教科でも，同じ形で学習をすることで，各授業時間の生徒の思考がスムーズになり，
結果的に，各教科の学習の質，生徒の知識活用力も深まり，さらには資質・能力の向上にもつながるのではないかと考えています。

到達目標として，
①では，　思考・判断・表現に関わる問題の正答率の変容（４月→１２月）　＋１０％，３年生の英検３級レベル以上の判定　55％以上
②では，「課題発見・解決学習」にかかわる15項目　県平均＋10P　を考えています。

①の到達目標は，今後の調査結果次第となります。
②の到達目標は，「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙調査が本年度は実施されないため，県平均との比較が不可能です。ただし，校内で同様の調査を行った結果は，昨年度同時期の本校の結果と比較し，15項目全てにおいて数値が下回りました（本年度平均76，昨年度平均87）。休校が続いた中，急ぎ足で授業が進み，読み取りや話合いに十分に時間がかけられていないことが現れたのではないか，と分析しています。

3　研究内容①②のポイント

(1) 問い作り（強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定）



今後，研究内容①および②を進めていく上での，ポイントを整理します。

1つ目が，「問い」をいかに作るかです。

写真は，校長室のホワイトボードですが，問いを作るにあたり，以下の点に各先生が着目しています。
①社会の動きと生徒の意欲を関連づけること
　新型コロナ感染症対策やTOKYO2021
②カリキュラムをつなげて考えること
　サバプロ　から　保健体育や美術とのつながり。 さらに美術から英語へのつながり。
③生徒のこれからの生き方と結びつけて考えること，教科の面白さ，本質で勝負すること
　生徒の既有知識とのズレやギャップを生む。仮説⇒検証という単元構成。

そのうえで，生徒の「疑問」や「期待感」を膨らませる導入の後に，課題設定を行うこと。
導入の工夫としては，
・ICT機器の積極的な活用を図るなど，生徒の興味関心を高める工夫を盛り込むこと。
　「おや，なぜだろう？」「そんなこと考えたことなかった！？」と思わせる仕掛けを見せたり，演示や実験を行う。
　「かっこいい！自分もやってみたい！」と思わせるイメージを提供する。
・時事ネタやテレビ番組名等を利用しながら，生徒を惹き付けるキャッチーなタイトルを付けること。

３　研究内容①②のポイント

(2) 指導案検討・シミュレーション授業の実施

２つ目です。

忙しい中ですが，どれだけ時間をかけて準備をできるかもポイントの１つだと考えています。

校内研修で，指導案検討・シミュレーション授業を実施し，

教科に関係なく先生同士でアイディアを出し合い，より良い授業にしていこうという，

日比崎中学校が持つ雰囲気を，今後も大切にしていきたいと考えています。

3　研究内容①②のポイント

(3) 協働学習（話合い活動）の充実

思考を深める学び合いの場となるようにする。

各教科・領域の特性，学習課題に応じて，

以下の (1) ～ (3) を使い分ける。

(1) 少人数班

(2) ホワイトボードの活用

(3) 全体討議の実施（各教科・領域の特性，学習課題に応じて，以下の①～④方法を使い分ける。）

①班で思考したことを発表させる。

②班で出された考えのグルーピングやラベリングを行い，考えを深めさせる。

③班から出された考えに対する質疑応答を重ねながら全体討議を行い，考えを深めさせる。

④個人や班での思考を基に，「口の字」の形（平場）での全体討議を行い，考えを深めさせる。

3つ目として，協働学習（話合い活動）の充実が挙げられます。

話合い活動が，思考を深める学び合いの場となるようにしなければなりません。

そのためには，各教科・領域の特性，学習課題に応じて，以下の（1）～（3）を使い分けることが重要です。

（1）少人数班
　（自己の意見を持たせた上で），3～4人の少人数班による意見交流を行い，自己の考えを深めさせる。

（2）ホワイトボードの活用
　少人数班で考えを何度も練り直させ，思考したことをミニホワイトボードに表現させる。

（3）全体討議の実施（各教科・領域の特性，学習課題に応じて，以下の①～④方法を使い分ける。）
　①班で思考したことを発表させる。
　②班で出された考えのグルーピングやラベリングを行い，考えを深めさせる。
　③班から出された考えに対する質疑応答を重ねながら全体討議を行い，考えを深めさせる。
　④個人や班での思考を基に，「口の字」の形（平場）での全体討議を行い，考えを深めさせる。

一生懸命に頑張っている生徒が，よりチャレンジできる学校でありたいと思います。

指導主事の先生方には，本校の研究のさらなる深化のため，それぞれの取組に忌憚のないご意見をいただければと思います。

以上で，教育研究実践報告を終わります。

ご静聴ありがとうございました。